

# 備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。  
そなえる。用意する。そろえる。用心する  
防備。常備。完備。不備。具備。兼備。  
そなえ。しだく。用應。警戒。防犯。  
備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。  
そなわる。準備ができる。身に付く  
●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!

no. **12**

かわさき  
防災広報紙

昭和60年7月31日発行  
編集・発行：  
川崎市土木局防災対策室  
〒210 川崎市川崎区宮本町1番地  
TEL.(044)200-2111内線2841



# 忘れたたふるに、ちりちりくる。

くりかえし、備える。

・月日重なり、年経にし後は、言葉にかけて言ひいづる人だになし。

● いまから62年前―大正12年9月1日午前11時

58分、揺るぎないはずの大地が、突然狂ったように波打ち、裂け始めた。あちこちで火災が発生し、町は火の海となり、残ったのは、崩れ落ちた建物とおびただしい死体の山。そして、家を失い途方に暮れる人々だけでした。

● 倒壊家屋 約12万8千戸

● 焼失家屋 約44万7千戸

● 死者、行方不明者 約14万3千人

という、未曾有の災害を引き起こした「関東大地震」です。

そして、いま―人口が急増し、都市機能が著しく発達した現在、もし「関東大地震」級の大地震が起きたなら：その被害は図り知れないものがあります。

私たちは、あの悪夢を繰り返さないように、日ごろから災害に対する備えや訓練を行い、自分たちの手で災害に強い町づくりをしなければなりません。

9月1日は、「防災の日」です。市内各地でいろいろな防災訓練が行われます。今年も、たまたま日曜日―わが家に家族みんながそろっている家庭が多いことでしょう。夏の暑さに負けない熱意で、もう一度、わが家と地域の地震への備えを！

## ◆方丈記 鴨長明 大地震

〔裏面に現代語訳あり(体験談スベシヤル)〕

また、同じところかよ。おびただしく大地震の振る

ことはべりき。そのさま、尋常ならず。山は崩れて、河を埋み、海は傾ぶきて、陸地をひたせり。土裂けて、水涌きいで、巖割れて、谷に転びいる。渚漕ぐ船は、波にただよひ、道行く馬は、脚の立処をまどはず。都のほとりには、在所、堂舎塔廟、一つとして完ならず。或は崩れ、或は倒れぬ。塵灰たちのぼりて、盛りなる、煙のごとし。地の動き、家の破る音、雷にことならず。家のうちにをれば、たちまちに拉げなん

とす。走りいづれば、地割れ裂く。羽無ければ、空をも飛ぶべからず。龍ならばや、雲にも乗らん。恐れの中に、恐るべかりけるは、ただ地震なりけりとこそ、おぼえはべりしか。

かくおびただしく振ることは、しばしにて、止みにしかども、そのなごりしばしは絶えず。世の常、驚くほどの地震、二・三十度振らぬ日はなし。十日・二十日過ぎにしかば、やうやう間遠になりて、或は、四・五度、二・三度、も少しは、一日交ぜ、二・三日に一度

など、大方、そのなごり、三月ばかりやはべりけん。

四大種の中に、水・火・風は、つねに害をなせど、大地にいたりては、ことなる変をなさず。昔、齊衡のころとか。大地震振りて、東大寺の仏の御首落ちなど、いみじきことどもはべりけれど、なほこのたびにはしかずとぞ。すなはちは、人皆あぢきなきことを述べて、いささか、心の濁りも、うすらぐとみえしかど、月日重なり、年経にし後は、言葉にかけて言ひいづる人だになし。

# 9月1日は、「防災の日」

9月1日に行われる  
防災訓練

〈東海地震〉の発生が「予知され  
たときの訓練」と、〈関東大地震〉  
と同じくらいの「地震が起きた  
ときの訓練」を行います。

午前9時10分  
「予知されたときの訓練」

★警戒宣言の伝達＝消防署やパト  
カーなどが、一斉に伝達のサイレ  
ン（45秒鳴らして、15秒休みを3  
回繰り返す）を鳴らします。

★混乱防止訓練＝川崎駅周辺で、  
交通規制、バス・タクシーの一時  
移転を行います。

★学校・幼稚園の生徒等の引き取  
り訓練（8月30日～9月5日の間）

午前10時から  
「地震が起きたときの訓練」

◎中央会場訓練（中原区丸子橋わ  
き河川敷グラウンド）

◎街角防災訓練

◎わが家の「地震防災一声運動」

「ことしも、わが家で、  
地震防災二声運動」

地震のとき、一番恐ろしいこと  
それは、「火を出す」ことと、「け  
がをする」ことです。たとえ、わ  
が家から火を出さなくても、地震  
時は、火災が多発することが予想  
されます。このような時、もし、  
やがてわが家に及ぶますから、火  
は小さなうちに発見し、となり近  
所で協力して消す必要があります。  
火さえ出さなければ、避難の必要  
もありません。また、けがをして  
も、大勢でなるべく早く助け出し  
手当をすれば、それだけ軽くてす  
みます。となりの家の安全がその  
まま、わが家の安全につながるわ  
けです。



関東大震災・横浜山手方面  
（大震災写真帖・神奈川県・復刻版より）

## 「防災の日」の チェックポイント

毎月15日の川崎市民地震防災デー  
と同じチェックポイントです。防  
災は、ふだんからの備えが大切で  
す。「防災の日」に、もう一度、見  
直してみましよう。

- 家具などが倒れないように点検する
- 火の元の安全を確かめる
- わが家の備蓄品・非常持ち出し品を確かめる
- 家族みんなで防災について話し合う

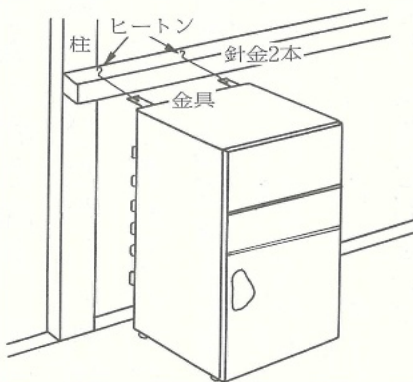


- 地震の知識をおぼえておく
- わが家とわが家のまわりの点検をする
- 応急手当の方法をおぼえておく
- 「わが街」の自主防災組織の防災訓練などの活動に参加する

## 身の回りの安全レクソン④

### 冷蔵庫のとめかた

- ① 冷蔵庫のうら側に、しっかりとめたネジがあればそれに金具をとりつけ、針金2本とめめる。
- ② 冷蔵庫のネジが弱い場合は、新しいネジをとりつける。
- ③ とりつけのとき放熱パイプを傷つけないよう注意する。



## 川崎市南部り災者の声

飛川末次さん  
（現在の川崎区浜町）

### 自分のことだけで、せいっぱい

当時まだ、私は22歳で結婚1年足らずでして、子供ができて間もないころでした。トラスコンに勤めておりました。家族は、両親と私達夫婦、子供が1人。それに田舎から働きにきていた若い人が5人ほど同居しておりました。地震の時は、ちょうど昼でした。私は、会社におりました。食後のお茶を飲んでいたら、グラツときたとたん、おもてへ飛び出しました。ワァーワァーというさわぎ声で皆外へ飛び出ており、これは大変なことだと思いました。とにかく他人のことに気を配る余裕などなく、自分のことだけでせいっぱいだったのです。いったん外へ出た人が事務所の中に忘れ物をしたと聞いて取りに入り、建物がぐずれ、下敷きになって死んでしまいました。やはり、いったん表へ出たら、いくらか大切なものを忘れたからと言って取りにもどることはしない方がいい。命あってのものだねだからね。

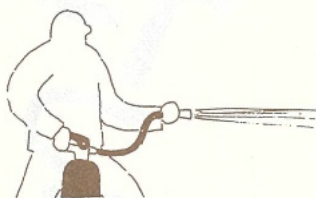
家内の話によると近くの病院には6尺(2m)もある赤レンガの塀が、グルリと回りにあったのですが、それがあつという間にバラバラとぐずれ落ち、塀に寄って地震を避けていた人が、亡くなったそうです。プロック塀もくずれの危険性は多いが、

当日は、やっこの思いで家にとどりつくすぐ食物の買出しに出かけました。どの店も雨戸をしめてしまつて、品物を売ってくれないんです。それでも、やっこの思いで1斗ばかりの米を買い集めましてそれで当分は、大丈夫でした。後になって、役場の方の援助もありましたから、特にこまることもなかったです。(余震がひんぱんに起つて、家の中ではあぶないので、家の前の梨畑にかやをつり、野宿して、家の中へ必要なものをいちいち取りに行ったりしていました。(一部加筆)

## 防災センターだよ 3 消火器の 訪問販売に ご用心!

最近、消火器の訪問販売についての苦情や問い合わせが防災センターに寄せられるようになりました。「防災センターのほうから来た」とか、「お宅には消火器の設置義務があるといわれたが本当か」という内容ですが、市・区役所や消防署が消火器などの防災用品を販売することも、業者に委託することもありません。また、一般の家庭では、設置の義務はありません。

しかし、一般の家庭でも、万一に備えて、消火器を準備しておくことにこしたことはありません。なお、規格の改正により安全ピンは上抜き式に統一されているので、購入の際、ご注意ください。



消火器の購入についてのご相談は、もよりの消防署または、防災センターにお問い合わせください。  
●防災センター見学ご希望の方は、  
川崎区小田7-3-1  
川崎市南部防災センター  
☎355-2175へ  
交通 国鉄川崎駅前東口9番バス乗り場 臨港バス 富士電機行「小田小学校前」下車 徒歩6分

## ◎体験談ス・シヤル

方丈記 六 大地震 鴨長明

また、これも同じころだったと思うが、ひどく大きな地震がゆれたことがあった。そのありさまは、ただごとではない。山はくずれ、河をうずめ、海はひっくり返って、陸地をひたしてしまった。土が裂けて水が湧き出し、岩石が割れて谷にころがりこむ。海岸近くを漕いでいた船は、つなみに沖へ持ってゆかれ、道行く馬は、踏みころが定まらず、足をあがいた。都近くでは、ここがこの神社仏閣、ひとつとして無事に立っているものはなく、どれもこれもくずれたり、倒れたりした。ちりほこりが立ちのぼつて、そのはげしさは、さながら煙りのごとく、大地がゆれ動き、家がくずれ崩れる音は、まるで雷鳴のようであった。家のなかにいると、たちまちおしつぶされそうになるので、外へ走り出れば、地面がひどく割れさける。羽がないから、空に舞いあがるわけにもゆかず、龍ならは雲に乗ってでも飛べようが、人間にはそれもできない。つくづく、恐ろしいものななかでも恐ろしいのは、地震だと痛感したことだ。そんなにひどくゆれることは、暫時でやんだけれども、そのあとの余震がしばらくは絶えず、ふだんならびっくりするくらいの地震が、二、三十度ゆれぬ日はなかった。十日、二十日過ぎると、だんだん間違になつて、ある日は日に四、五度、二、三度、もしくは一日おき、二、三日に一度など、大体その余震が三月ばかりはあったでしょう。

四、大種(宇宙の四元素)の中で、水・火・風の三つは、いつも書をなすが、大地にいたっては、格別の異変を起さる。昔、文徳天皇の言のころか、大地震があつて、東大寺の大仏のお首が落ちたとして、ひどいことがあつたけれど、それでも、このたびほどのことはなかった。だ。

## 夏、本番。台風も本番。

6月30日、梅雨前線と台風6号が、川崎市内にも大雨と強風による被害をもたらしました。大雨などの被害を少しでも小さくするため、もう一度、わが家のまわりの排水路や排水口の掃除など、身近なところの安全を確かめましよう。大雨や台風ときは、テレビやラジオの気象情報に注意し、早めに避難の準備を心がけることが大切です。